



枚方市は昭和30年代後半以降、宅地開発が進んで転入者が増加し、子どもの数も急増しました。市は昭和40年から20年かけて46の小・中学校を新設しました。特に45年以降は校舎の増築や学校の新設が子どもの増加に追いつかず、校庭の大半をプレハブ教室が占める学校もあるほどでした。

# 思い出詰まった学校

先生や友人との思い出がいっぱい詰まった学校園。運動会での活躍や緊張した面持ちの入学式などなど。時代を感じさせる建物にも注目です。



C Kさん「枚方高校の体育祭でリレーのアンカーで頑張りました」(昭和40年10月)



くまさん「ボール蹴り競争で一番を競っています。当時は足袋の着用が多かったのですが、裸足にサポーター着用が格好良いと思ってました。ちなみにこの後、ボールが観覧席に行ってしまう一等賞はもらえませんでした」(昭和43年、菅原小学校)



将和さん「北牧野小学校で行われた区民体育祭の様子。写真の背景は増築工事が行われる前の府営住宅。当時はお風呂もなくみんな銭湯に行っていました」(昭和53年)



Hirotyさん「殿山第二小学校運動会。校舎は今もそのままですが、手前の給食棟はもうありません。当時流行の屋上から吊り下げた手作り垂れ幕が懐かしいです」(昭和52年)



昭和53年、殿山第一小学校の運動会で走る6年生の森脇さん(左)。

るうにいさん「枚方市史上一番熱かったであろう日曜日に撮った一枚です。ひらパーのフラッシュモブのイベントに友人が参加した後の写真なのですが、主役は顔を真っ赤にしながらも恥を捨て、コミカルでサンパティックな、どこか三代目で見たようなダンスを踊っていました。僕は太陽の日照りに気を取られすぎた挙句、うっかり両腕に真っ赤な日焼け跡を残してしまいました。主役はその日、ひらかたパークに大きな爪痕を残せたのではないのでしょうか。僕史上一番熱い日曜日でした」(平成29年6月)



Toshiyaさん『『ウルトラセブンと地球防衛軍』の前で。人気の高いウルトラセブンの必殺技(チョンマゲがブーメランのように飛びアイスラッガー)を、テレビで興奮しながら見ていました。毎年秋には同じ後の3の建物で『ひらかた大菊人形』の見流しが行われていました」(昭和43年)



武田正徳さん「ひらかたパークを出て、枚方公園駅へ向かう『おかしり道』。駅までの道はいろんな出店があって、とても賑わっていました」(昭和39年)



伏見隆さん「父母、兄、姉とひらかたパークで。家族みんなで写っている写真は全てひらかたパーク。この時、弟はまだ生まれていない。私は『枚方生まれ枚方育ち』、正確に言うと、『禁野本町生まれひらパーク育ち』だったみたい」(昭和45年5月)



芝ゆきさん「家族でひらかたパークのプールに遊びに行ったときの写真です。写っているのは私の兄で、私は満員のプールで迷子になり泣いてふてくされてました(写真には写っていません)。よく迷子になっていたことを思い出します。当時は学校のプール以外でプールといえばひらかたパークしかなかったので本当に楽しかったです」(昭和42年か43年)

## いつも優しく迎えてくれる 素敵な街

もりわき けんじ  
森脇 健児さん

17歳で芸能界入りしテレビ・ラジオで幅広く活躍。近年は、「走る男」として再ブレイク。全国のマラソンイベントにゲストランナーとして招かれている。



## 枚方ゆかりの人

昭和50年代の枚方市は子ども達であふれかえっていました。どこから子ども達の声も聞こえていて、僕の入学した第一中は1学年が15組もあった超マンモス校でした。今は子ども達の数は多くないかもしれませんが、今の枚方市は学生も多く活気があふれていると感じます。魅力のある街だから活気があり、自然豊かです。それでいてほどよく都会な枚方。いつも僕を優しく迎えてくれる素敵な街です。